

1

させるため、集客のための特産品ギャラリー等を開設して、地域の伝統的特産品である「めのう工芸」や「布志名焼き」のPRを行い、地域全体の魅力を高め従来のにぎわいを再生させたい。

2. 事業内容：チャレンジショップ事業

(1) 実行委員会、作業委員会の設置・開催

1) 実行委員会 5回開催

実行委員会での検討項目

本事業経費配分の検討

事業スケジュールの検討

本事業全体の運営についての検討

チャレンジショップの運営についての検討

チャレンジショップ出店者募集の検討及び出店者の選定

特産品ギャラリーの全体内容について検討

特産品ギャラリーの運営について検討

イベントの企画及び実施についての検討

イベントの運営についての検討

誘客広報・宣伝事業の全体内容の検討

啓発事業についての検討

本事業の全体調整

本事業の経費監査

2) 作業委員会 4回開催

作業委員会での検討項目

各事業のスケジュール及び具体的運営についての検討

チャレンジショップ出店者募集の検討及び出店者の選定

チャレンジショップ出店者との協議及び調整

特産品ギャラリーの具体的内容及び運営について検討

体験工房の講師との折衝調

整イベントの企画及び実施

計画の策定

イベントの具体的運営についての検討

のみの市出店者の選定方法と募集についての検討

のみの市出店者の協議及び調整

誘客広報・宣伝事業の具体的内容と実施についての検討

啓発事業の具体的内容と実施についての検討



チャレンジショップの様子

(2) 空き店舗対策事業 (チャレンジショップ事業)

- 1) 玉造温泉街の空き店舗を実行委員会で借上げ、チャレンジショップとして運営する。
- 2) チャレンジショップを 2 店舗開店するために提案公募型の出店募集を行う。
- 3) チャレンジショップ 2 店舗は下記の場所に設けるものとする。
A 店舗 住所 玉湯町玉造 46 - 2 面積 約 8.8 坪
B 店舗 住所 玉湯町玉造 46 - 4 面積 約 7.8 坪
- 4) 本事業の実施期間は、平成 13 年 7 月 1 日から平成 14 年 3 月 31 までとする。
- 5) チャレンジショップ出店者の当初の一部店舗改造費と店舗賃貸料及び電気代は、本事業期間内においてはこれを無料とする。その他、開店後の改造と経費は出店者負担とする。
- 6) チャレンジショップ出店募集を策定する。
- 7) チャレンジショップ出店募集期間は、平成 13 年 6 月中旬から同年 6 月末とし、新聞チラシ等により広く公募する。
- 8) チャレンジショップ出店申込書及び申込者に提出してもらう出店計画書を策定する。
- 9) 出店申込書者については、6 月末に当商店街等活性化委員会において審査し、出店者を決定する。
- 10) 出店者決定にあたっては、販売品や品揃え及び販売方法に独自性のある出店者を重視し継続性のある出店者にする。
- 11) 決定したチャレンジショップ出店者とは速やかに協議し、出店契約書を交わし、開店期日を決定する。

(3) 特産品ギャラリー事業

玉造温泉街の空き店舗を実行委員会で借上げ、特産品ギャラリーとして運営する。

- 1) 特産品ギャラリーでの展示物等は、玉造温泉の歴史や伝統をパネル等で展示する。玉湯町の特産品の布。

志名焼き及びめう製品の紹介。

玉湯町の弥生時代の玉づくりの資料展

示。地元玉湯町の愛好家による作品展示・販売

特産品ギャラリー事業は、平成 13 年 7 月 20 日から平成 14 年 3 月 31 日とし、毎週月曜日を休館日とする。

特産品ギャラリー事業は、下記の場所に設けるものとする。

住所 玉湯町玉造 46 - 2 面積 約 11.8 坪

特産品ギャラリーには、常時 1 名のガイド役兼管理者を置くこととする。



チャレンジショップ外観

【 効 果 】

（１）人的資源の必要性についての再認識

実験的事業であったが、これからもやるとなると、準備や受付や開催中のトラブル処理など現場に携わる人が必要となるので、イベント実行委員会のような仕組みがないと運営出来ない。

また、さらに魅力あるものにするためには玉造温泉ならではの付加価値も必要であり、実施するための費用や、その企画運営も必要となってくる。一年間活性化事業として、いろいろなことを実施してきた結論は、やる人がいて、協力する人、参加する人が必要なこのような事業はそもそも“やる人”がいるかということが一番大事なことだと感じた。

人のネットワークの中心になる人とか組織の大切さを痛感した。

（２）商店街の活性化事業を通して、地域の何が変わったか

活性化事業として、チャレンジショップや特産品ギャラリーのオープン、玉造温泉のみの市や体験工房を開催して特に地域が変わったかという温泉街にいくらか明かりが灯ったり、ときどき温泉街の中心でイベントが開催され、町外の方々がお越しになったりということで、街全体が大きく変化した訳ではない。

ただ新しい店がオープンして温泉街が少し明るくなっただけで温泉街の雰囲気が活気に満ちて、宿泊されているお客様もちょっと外に散歩してみたりと、なんとなく雰囲気がよくなり、また、のみの市などの昼間のイベントも普段訪れたことのない時間帯のイベントのため、違ったイメージの玉造温泉を楽しんで頂くことにつながった。

以上は、玉造温泉から外部への発信、もしくはアプローチである。事業をやる側、町内の人達へのアプローチまたはメッセージとして、「閉まっていた店が開けば街が明るくなる」とか、「イベントをすれば人が集まる」など、分っていてもしなかつたりできないことを、商工会青年部という若い力だがむしゃらにやることで、色々な組織の人達が街づくりに前向きに参加してくれればという思いがある。

「川辺の出湯」～風土記にみえる玉湯～



町には色々な組織や団体があり、イベントをしたり、町をよくするための事業をしたりたくさんの取り組みがされている。

ただ、街づくりという向かう方向は一緒でもやり方が違ったり、予算などの問題であったり、単にそりが合わない程度のことだったり、一つの大きな力にならないことがある。

商工会という、地域の経済団体でまた青年部という肩書きや枠に捕らわれない自分たちが中心になることで色々な組織や団体がまとまることが重要であり、そのために周囲もその環境作りのための努力を続けていく必要がある。

【課題・反省点】

この事業は商工会青年部を中心に実施体制をつくり、委員も商工会青年部のメンバーが多く入っている。従って商工会青年部のリーダーシップで事業を行っていくこととなったが「だれが」の問題において、今後中心になるべき「だれ」を明確にできなかった。

【教訓】

組織で事業を行っていくことになるが、「だれが」を明確にしないと、責任が判らないこととなり事務局まかせの事業になる。

【関連URL】

玉湯町商工会

<http://www.joho-shimane.or.jp/shokokai/tamashou/>



特産品ギャラリー

玉造温泉
にまわいの街づくり

玉造温泉のみの市

「玉造温泉ゆ〜ゆ」前の玉湯川沿いで毎月1回、日曜日朝8時から正午まで約15店舗が軒を並べて陶器・骨董品・古着・手作り製品などを思い思いに販売する湯の町風情たっぷりの「のみの市」を開催しています。(写真:平成13年実施事業)

